

# 先端研究基盤共用促進事業 全国連絡協議会

平成 30 年 6 月 25 日(月)、26 日(火)

熊本大学 国際先端生命科学研究推進センター



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY JAPAN

# 1. プログラム

## 1日目(6/25(月))

	プログラム	場所
13:00-13:30	幹事校受付	IRCMS ロビー
13:30-13:55	採択機関受付 / 幹事会(幹事校のみ IRCMS3F)	IRCMS ロビー
14:00-14:15	全体会 1	IRCMS 1F
14:15-14:25	各会場へ移動	
14:25-15:25	グループワーク 1 (小会議：班の名簿は p.4 参照)	各会場 p.4
15:25-16:05	グループワーク 2 (中会議：課題グループ)	各会場 p.4
16:05-16:25	休憩・移動	
16:25-17:40	全体会 2	IRCMS 1F
17:40-18:00	解散・移動	
18:00-19:30	情報交換会	楷樹会館 1F

## 2日目(6/26(火))

	プログラム	場所
10:00-10:40	熊本大学 ICALS についてご紹介	IRCMS 1F
10:50-12:00	施設見学会	IRCMS 1F

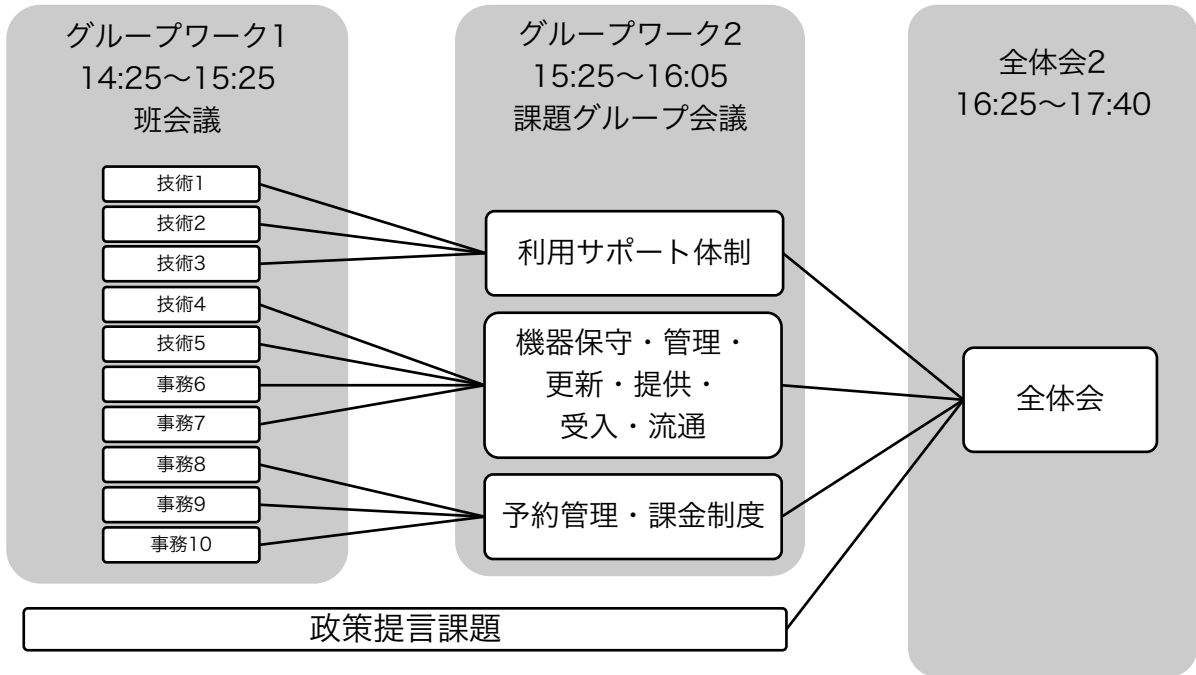
## 会場周辺アクセスマップ



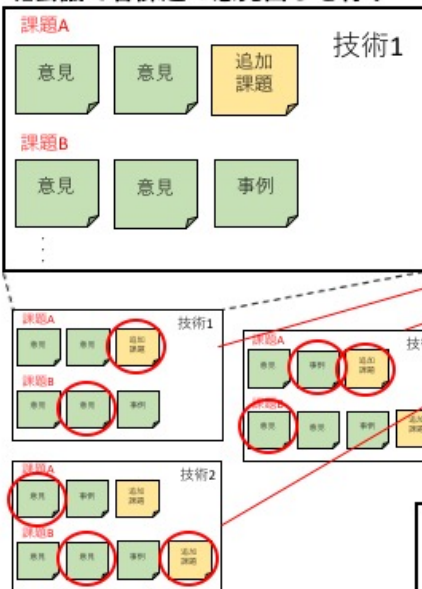
タイムスケジュール	プログラム	詳細
【1日目】 13:00-13:30	<b>幹事校受付時間</b> IRCMS ロビー	【受付】 ・情報交換会に参加する方は会費3,000円をお支払いください。
13:30-13:55 (25分)	<b>幹事会</b> IRCMS 3F	【幹事会】 ・幹事校のみ集まり、進行について打合せを行う。
	<b>採択機関受付時間</b> IRCMS ロビー	【受付】 ・情報交換会に参加する方は会費3,000円をお支払いください。
14:00-14:15 (15分)	<b>全体会1</b> IRCMS 1F	・Opening Remarks(事業の目的、本連絡会の意義説明) ・前回までの流れ、今回のプログラム進行について説明。
14:15-14:25 (10分)	移動	・各課題について職種別(事務・技術)に分かれる(~10名/班)。 ・p.4の班分け名簿をご確認ください。
14:25-15:25 (60分)	<b>グループワーク1</b> (小会議・班)  *政策提言グループは 14:25-16:05に 会議形式で議論を行う	【小規模班での意見出し】 ・各班にファシリテーターと書記を配置。 ・前回の連絡協議会で出された課題・意見と文科省のアンケート内容をまとめた課題一覧(p.5-7)をもとに、さらに追加したい課題や意見、課題に関する事例・解決策等の意見出しを行う。 ・出された意見は書記が付箋紙に書き出し模造紙にまとめていく。
15:25-16:05 (40分)	<b>グループワーク2</b> (中会議：課題グループ)	【課題グループで各班の意見を共有・まとめ】 ・各班のファシリテーターを中心に、どのような課題・意見・事例などが出たかを課題グループ全体で共有する。 ・次回の協議会で議論が必要となる重要な課題の洗い出しを行い、課題グループ全体でのまとめを行う。
16:05-16:25 (20分)	休憩・移動	・グループワーク会場の片付けにご協力ください。
16:25-17:40 (75分)	<b>全体会2</b> IRCMS 1F	【課題を全体へ共有】 ・各課題グループ+政策提言グループの意見をまとめて代表者が発表 (60分：各課題につき発表5分,質疑応答10分)  ・次回協議会についてなど連絡事項等(10分)  ・Closing Remarks(総括5分)
17:40-18:00 (20分)	解散・移動	・情報交換会に参加される方は、会場への移動をお願いします。
18:00-19:30 (90分)	<b>情報交換会</b> 楷樹会館1F	・食事しながら情報交換、ノウハウの共有
【2日目】 10:00-10:40	<b>ICALSの紹介</b> IRCMS 1F	・日程説明 ・ICALSの取り組みについて紹介
10:40-10:50	休憩・移動	
10:50-12:00	<b>施設見学会</b>	・施設2カ所(IRCMS, 発生研)を見学

## 2. グループワーク(14:25-16:05)の概要

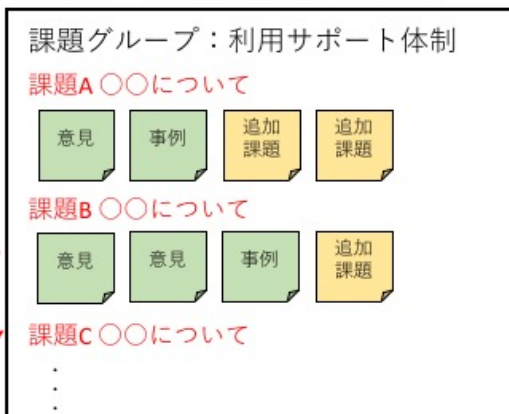
今回の連絡協議会では、事業における課題を技術系・事務系の職種別観点から整理・議論します。2回のグループワークを通してまとめられた各課題の意見を、参加者全員で共有します。



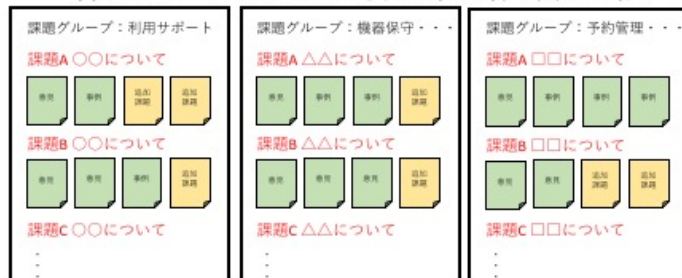
### ①グループワーク1. 班会議で各課題の意見出しを行う



### ②グループワーク2. 課題グループで各班の意見をまとめる



### ③全体会2. 課題グループでまとめた意見を参加者全員で共有する



## 4. グループワーク課題一覧

### 課題グループ【利用サポート体制】技術1、2、3班が議論する課題

#### 課題1. 機器の利用をサポートする人材について

(これまでの連絡会、アンケートで出た意見)

- ・事業内で人的なネットワークを形成し、横断的なポジションの確保に繋がらないか。
- ・人材不足を新規雇用ではなくプロパー技術職員のローテーションで補う方針もある。
- ・機器センター以外の教員、学生 RA/TA の技術を活用するケースもある。その場合、利用料をただにする。
- ・医学系は確保が困難。
- ・技術職員がどうあるべきかとセットの議論。部局間の壁をどう壊し、人材を配置できるか。機関内外の人材の流動性。
- ・技術職員のローテーションの中で、様々な装置を担当させ、キャリアアップにつなげるケースもある。そのための研修を実施。メーカーのセミナーをうまく活用することも大事。
- ・「技術者」を育てる事業があると良い。

#### 課題2. 事業終了後について

- ・技術支援者を継続して雇用するための財源、ポスト
- ・サポート体制の維持

#### 課題3. 予約管理について

- ・負担軽減のため、予約等でWEBを活用するところが多い。
- ・使い方を表示することで技術補佐員の負担軽減。
- ・予約・課金までをWEBで行うことで事務手続きの軽減。

#### 課題4. 学外ユーザーの利用サポートについて

- ・大学連携研究設備ネットワークを活用し、外部ユーザーを獲得することで多くの人に使ってもらおう。
- ・医学部は外部の利用確保が難しい。外部利用の獲得状況は参画している部局によりばらつきがある。

## 課題グループ【機器保守・管理・更新・提供・受入・流通】

### 技術4、5 事務6、7班 が議論する課題

#### 課題1. 機器保守・管理

(これまでの連絡会、アンケートで出た意見)

- ・ 共用機器の定義が統一されていないため、共用化する機器の選択も異なっている。
- ・ 機器の選択と集中が不可欠。利用可能性や必要性などで判断している。
- ・ 大学連携研究設備ネットワークを活用し、外部ユーザーを獲得することで多くの人に使ってもらおう。
- ・ 昔は補正予算で先端機器が整備されてきた。研究費で購入するものは、研究機関後、共用化されるが、そういうものを維持するのが本事業の目的か。最先端研究も古い装置で行うということか。
- ・ 一括保守による費用低減効果について。
- ・ 突発的な修理への対応のため、予備費が必要ではないか。
- ・ 機器の修理も行う(阪大リノベーションセンター)。
- ・ 共用システムにおける管理責任の帰属について、共用システム側/専門職に任せてうまくいっているケースもある(東北大)。
- ・ 文科省がシステムを開発し、無償提供するなど大学が開発費用に要する費用を安価に抑えられる仕組みが欲しい。

#### 課題2. 更新

- ・ 共用化装置・設備の更新ならびに新規設備導入の位置づけ
- ・ 古い機器を共有化するだけではユーザーは集まらず、最新機器も必要であるが、本事業では、最先端のものに交換することができない。更新はどう考えるのか。
- ・ 共用機器の利用料金での自立運営を目指しているが、最先端の機器等へ更新するための費用をどこから捻出するか。

#### 課題3. 提供・受入・流通

- ・ 機器の受け入れ時の、スペースの確保。
- ・ 中古品の流通は可能性があり、FECM, NMR の中古品を買う。業者を通じて買うことも可能。

## 課題グループ【予約管理・課金制度】事務8、9、10班が議論する課題

### 課題 1. 予約管理

(これまでの連絡会、アンケートで出た意見)

- ・ 共用化、研究力の強化、推進するための人、システム整備、教員の負担が増えている。サポート体制の維持、課金でフォローできるのか？
- ・ 負担軽減のため、予約等でWEBを活用するところが多い。
- ・ WEBシステムを持ち、機器の予約が可能なところが多い。しかし、課金手続き・料金算定についてどこまでWEBで可能かはバラバラ。会計システムとの連携に困難があるところも多数。

### 課題 2. 料金の設定

- ・ 料金基準の設定、減価償却+人件費+光熱費+消耗品など。
- ・ 学内外の差の設定はあるが、基準はあまりない。
- ・ 各大学の利用規約や料金設定の考え方などのあまり公にしていない資料や、各事業を行うにあたって生じた問題点をどのように解決したか等が記された事例集を事業担当者間で共有する場を設けることができれば、効率的な情報収集ができるようになり、効果的な事業の展開ができると思う。

### 課題 3. 会計、繰り越し、積み立て

- ・ 収益、単年度会計の壁、打開策はあるのか。
- ・ 課金で得られた収入は、直接部局や機器担当者が利用できる場合もあるが、一度、大学に入って、修理の要望を申請・許可が得られたのちに支出される場合もある。
- ・ 課金で得られた収入を来年度に繰り越しできないため、次年度の計画性が担保できない。
- ・ 積立金、預託金、大学全体の予約金に入れる、学内の利用料、学外も可能(東大)。
- ・ 積立は科研費で可能か？使用料を払った時点で、科研費の手は離れている。
- ・ 公的資金を学内に支払う？
- ・ 更新費用の積み立てを目的とした、利用料金の基金化を可能とする制度改正。